

令和4年度大阪府堺市保健医療協議会

精神医療部会 議事概要

日時: 令和4年11月24日(木)午後2時から午後3時30分

開催場所: 堺市役所 本館地下1階 多目的室(web ハイブリット)

出席委員: 8名

(委員定数9名、定足数5名であるため有効に成立)

黒田委員、栗田委員、鹿嶋委員(web)、河内委員、高橋委員、中村委員(web)、
藤井委員、森委員(web)

■議題1 「堺市二次医療圏における精神疾患医療の取組状況について

資料に基づき、堺市健康福祉局健康部精神保健課、長寿社会部長寿支援課、障害福祉部障害施策推進課から説明。

【資料1】堺市二次医療圏における精神疾患医療の取組状況

【資料1-1】依存症対策の取組状況について

【資料1-2】堺市における認知症施策の取組状況について

【資料1-3】地域移行等の取組状況について

【参考資料1】堺市依存症地域支援計画 概要版

【参考資料2】令和3年度 精神科在院患者調査報告書 [堺市版]

【参考資料3】堺市自殺対策推進計画 第3次 概要版

(意見等)

○地域移行について、できるだけ退院できるようにしたいので、サポートをお願いできればと思う。

(質問)

○堺市の「いのちの応援係」と民間の電話相談「いのちの電話」とは事業連携等の協力関係はあるのか。

○自殺未遂者ではなく、自殺企図を考えている方への支援はあるか。

○地域移行について、入院1年以上で取り組むという根拠は何かあるか。

(堺市の回答)

○「いのちの電話」を相談者に紹介することはあるが、「いのちの応援係」と「いのちの電話」とは直接的に事業の連携はない。

○事業としては、自殺未遂者を対象としているが、警察や市の窓口等で「死にたい」等の発言があった場合は、その窓口で発言者に「いのちの応援係」を紹介してもら

い支援を開始している。

○根拠はない。1年以下でも地域移行の対象としている。

■議題2 堺市二次医療圏における精神疾患医療の課題について

資料に基づき、堺市健康福祉局健康部精神保健課、長寿社会部長寿支援課、障害福祉部障害施策推進課から説明。

【資料2】堺市二次医療圏における精神疾患医療の課題

【資料2-1】依存症対策における課題について

【資料2-2】認知症施策における課題について

【資料2-3】地域移行施策における課題について

【資料2-4】自殺対策における課題について

(意見等)

○住み慣れた地域や近くで入院してもらうのがいいと思うが、大阪の精神科は中心部ではない周辺地域に集中している。特に救急は府全域で対応することもあり二次医療圏だけで解決できない事情がある。

○薬剤師会として、薬局で1人1点の販売という対策に取り組んでいる。また、学校薬剤師が学校での講習時に危険薬物に加え市販薬乱用についての演題を検討していきたいと考えている。

(質問)

○高齢者の自殺が多いと説明があったが、若年層も多いのではないか。未遂者への対策が必要ではないか。

○地域移行の「にも包括」において、就労問題は重要だと思う。事業所や企業に啓発が必要ではないか。

○堺市外の精神科に入院している市民が多いと思うが、理由はあるか。

○女性の自殺が増加傾向である理由があるか。

○新型コロナ禍で、子どもの市販薬多量服薬による救急搬送が増えている。自殺対策で教育関係の部署と連携はあるか。

○薬局のハシゴやネットで市販薬を多量に購入し、服薬することができる。これで死亡することもあるので、自殺対策として薬局へのアプローチは考えているか。

(堺市の回答)

○未遂者支援で39歳までの若年層は全体の約6割で、受理件数が多くなっている。高齢者の新規相談数も増加傾向であるので、子どもや高齢者の支援機関と連携促進が必要と考えている。

- 就労問題は課題と認識しており、「にも包括」の視点だけでなく、市として関係部局と連携して就労支援に注力しようとしている。
- 堺市民の市外精神科への入院先は、南河内や泉州地域が多いととらえている。一方、堺市外の方で堺市内の精神科へ入院される方も多い。その件数の比率について分析はできていない。
- 厚生労働省の自殺対策白書によると、女性の自殺増加は、被雇用者の自殺者が多いことから、職場の環境変化や人間関係等が影響しているのではないかと考えている。
- 自殺対策において、市内連絡会を通じて、関係機関との連携を進めている。
- 「相談機関一覧」の啓発ポスターやカードを薬局に配架を予定しているので、その機会をとらえてアプローチしたい。

■議題3 その他

「ひきこもり」について質問あり

(意見等)

- ひきこもり対策について、市民や専門職に情報共有や啓発が必要と思う。
- 「ひきこもり」は、精神疾患の人が多いたと思うが、全てが精神疾患ということではなく精神科として扱いにくい部分がある。

(質問)

- 「ひきこもり」は家庭内のDVや虐待等の問題がある場合もあり、表面化しにくい部分があるかと思うが、ベースに精神疾患がある可能性もあり対策について聞きたい。

(堺市の回答)

- 「ひきこもり」の相談は、49歳まではユースサポートセンターで、40歳以上はこころの健康センターで実施している。令和3年度はこころの健康センターで延べ3700件あまりの相談対応をした。長期化・高齢化しているとの相談が多くあり課題と認識している。